

第28回 宝塚混声合唱団音楽会

ヴェルディ

「レクイエム」

歌劇【ナブッコ】より

「行け、我が思いよ、黄金の翼に乗って」

歌劇【第1回十字軍のロンバルディア人】より

「エルサレム、エルサレム」

2016年8月20日(土)

兵庫県立芸術文化センター

KOBELCO大ホール

開場 13:30 開演 14:00

後援：宝塚市・伊丹市・西宮市・宝塚市文化財団・宝塚合唱連盟・兵庫県合唱連盟

ごあいさつ

本日は私たち宝塚混声合唱団の第28回音楽会にお越しいただき誠にありがとうございます。

畑儀文先生にご指導いただくことになって三年目の今年は、一昨年のハイドンのオラトリオ「四季」、昨年のベートーヴェンの「荘厳ミサ」につづき、ヴェルディの「レクイエム」（死者のためのミサ）に取り組みました。いずれも著名な大曲で、緊張感をもって、充実した練習を積み重ねることができました。

3大レクイエムの一つとされるヴェルディの「レクイエム」の近年の演奏は、激情的で振幅の大きい大音響の奔流に圧倒された「宗教曲でなくオペラティックな曲」との印象を強く世に浸透させています。このような風潮に対し、「大いなる喜びを持って神の栄光のために」書いたというヴェルディの作曲意図を体得し、「オペラティックなレクイエム」のイメージを変え、透明感のある「レクイエム」を追求することが、今回の私たちの挑戦です。

畑先生のご指導のもと兵庫県立芸術文化センター大ホールでヴェルディの「レクイエム」を歌いたいという方々の入団が相次ぎ、100名を超える団員が本日の舞台に上がることになりました。より上質の音楽演奏を求めて集い、懸命に積み重ねてきた練習の成果を、存分に発揮できるよう頑張って演奏したいと思います。

どうぞ最後まで、ごゆっくりご鑑賞いただくとともに、今後とも宝塚混声合唱団の活動に、ご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

2016年8月 宝塚混声合唱団



Program

ヴェルディ

歌劇【ナブッコ】より

「行け、我が思いよ、黄金の翼に乗って」

歌劇【第1回十字軍のロンバルディア人】より

「エルサレム、エルサレム」

プレトーク：畑 儀文

——— 休憩 ———

ヴェルディ

「レクイエム」

Requiem

Dies iræ

Offertorio

Sanctus

Agnus Dei

Lux æterna

Libera me

指揮 畑 儀文

独唱 辻井 亜季穂 (ソプラノ)

郷家 暁子 (メゾソプラノ)

松原 友 (テノール)

伊藤 貴之 (バス)

オーケストラ アンサンブル・ムジカ・アニマ

ヴェルディの生涯と曲目解説

1. ヴェルディの生涯

ジュゼッペ・ヴェルディ（1813～1901）はイタリアが近代的な統一国家へと向かう19世紀を生き抜いて、30曲近いオペラや声楽曲「レクイエム」など後世に残る傑作を生んだ偉大な音楽家です。

1813年、北イタリア・パルマ公国の小村に生まれたヴェルディは家業（旅宿）の手伝いや教会の侍童を務める勤勉な少年で、父の知己で音楽好きの商人バレツィに音楽の才能を認められ、その援助で中学に進み18歳のときミラノに遊学しました。ミラノ音楽院には合格できませんでしたが、スカラ座でチェンバロ奏者を務めながら声楽やオペラ作曲の腕を磨き、21歳でハイドンの「天地創造」を指揮して力量を認められました。23歳で音楽学校の教師に採用されたヴェルディは、バレツィの娘マルグリータと結婚し、男女2児を得ましたが、相次いで夭逝し、妻も27歳で病死してしまっ、失意と孤独のなかで刻苦してオペラの制作に励みました。

当時、オーストリアの支配下で小国分立の状態にあったイタリアでは、独立と全土統一を目指す「祖国統一運動」（リソルジメント）が高揚し、時代精神に敏感なヴェルディは“バビロンの捕囚のユダヤへの帰還”を題材に祖国愛を込めたオペラ「ナブッコ」を書き上げ、1842年にスカラ座で初演されて圧倒的な成功を収めました。翌43年に上演され“十字軍による聖地奪還”をテーマとした「第1回十字軍のロンバルディア人」も好評で、注文が殺到し、その後数年間に「エルナーニ」「群盗」などユゴーやシラーの史劇を台本としたロマン的な初期の作品群を次々に書き上げました。

脚本家の選択、台本の吟味、官憲の検閲への対処、歌手の選定、著作権の設定など万般に完璧を期するヴェルディの創作活動は、持病の胃痛との闘いも加わって、後年自ら“苦役の年月”と回想・述懐する厳しくも激しいものでした。1851年から53年にかけて「中期の三大傑作」と呼ばれる「リゴレット」「トロヴァトーレ」「椿姫」を完成し、イ

タリア各都市やパリ、ロンドンで上演され、国際的な評価が確立しました。名声と経済的安定を得たヴェルディはミラノ近郊に農地を購入し、「ナブッコ」の初演でヒロインを歌ったジュセッピーナと同棲を経て1859年に再婚しました。1861年、統一国家の成立に際して宰相カヴールより国会議員に就任を要請されて当選しますが、65年には辞任しました。

出生地で農園経営に力を入れるようになったヴェルディは、国外からの注文に応じて「運命の力」「ドン・カルロ」「アイーダ」など数年間隔でグランドオペラの名作を完成し、円熟期に入った1873年、60歳のときに彼の最高傑作の一つに数えられる「レクイエム」を書き上げました。晩年は病院の経営、音楽家のための老人ホーム〈憩いの家〉の設立などメセナ活動の先駆者として自適の日々を過ごす傍ら、シェイクスピアに傾倒して劇と音楽の融合に心血を注ぎ、「オテロ」と「ファルスタッフ」を完成しました。97年のジュセッピーナの死後は「レクイエム」の初演でソプラノ・ソロを歌ったシュトルツに支えられて暮らし、世紀が改まった1901年の初頭にミラノで87年の長い人生を閉じました。

2. 曲目解説

歌劇【ナブッコ】より

「行け、我が思いよ、黄金の翼に乗って」

「ナブッコ」（1842年）は旧約聖書を素材にT・ソレーラが脚色した全4幕のオペラで、紀元前6世紀、エルサレムを攻略したバビロニア（現在のイラク）の王ネブカドネザル2世（イタリア名“ナブッコ”）の捕囚となったヘブライ人たちの物語です。3幕第2場で歌われる合唱「行け、我が思いよ、黄金の翼に乗って」は苦役に苦しむ彼らがユーフラテス河の畔に集まって歌う望郷の歌で、「詩篇第137篇」が歌詞に織り込まれています。この歌はヴェルディの葬送の際、若きトスカニーニの指揮で演奏され、いまでは第2のイタリア国歌とまで言われています。

歌劇【第1回十字軍のロンバルディア人】より 「エルサレム、エルサレム」

「第1回十字軍のロンバルディア人」(1843年)はT・グロッシの同名の叙事詩をもとにT・ソレーラが脚色した全4幕のオペラで、11世紀末にローマ法王ウルバヌス2世の命により第1回十字軍に参加した北イタリアロンバルディア軍の献身を史実に基づき、そこに恋愛を絡ませた祖国愛の物語です。3幕第4場で歌われる合唱「エルサレム、エルサレム」は苦難の旅の末にようやく聖地エルサレムにたどり着いた喜びを兵士と巡礼たちが感涙を込めて力強く歌い上げます。

「レクイエム」

「レクイエム」は「死者のためのミサ」とも呼ばれ、<キリエ>で始まる盛儀ミサとは異なって<レクイエム>で始まり、死者の安息を祈願するためのミサです。数多くあるレクイエムのなかでも、モーツァルト、フォーレのそれと並び3大レクイエムの一つと言われるヴェルディのこの曲は規模、迫力の両面で際立っております。「レクイエム」の制作に先立つ1868年、ヴェルディはロッシーニの死に際し、音楽仲間13人で先師を追悼するミサの合作を企画し、自身は終曲<リベラ・メ>を担当したのですが、演奏の目途が立たなくなりました。1873年、尊敬する大詩人A・マンゾーニが逝去し、その死を追悼するため、<リベラ・メ>を練り直して7楽章からなる全曲をヴェルディ自らの手で完成し、翌74年の一周忌の日にミラノのサンマルコ教会で彼自身の指揮によって献呈・初演されました。その反響は極めて大きく、ヨーロッパから世界各地へと伝わって行きました。

- I. Requiem (永遠の安息)：静かな弦楽に合わせて死者の冥福を祈る合唱(レクイエム)ではじまり、テナー・ソロに続き四重唱と合唱が加わって、「主よ憐れみたまえ」(キリエ)と歌い継がれます。
- II. Dies irae (怒りの日)：全曲の中心を占める長大な楽章で、9つの部分からなっています。①オケの強打とともに、合唱が怒りの日を告げ、咆哮のように繰り返されたあと

②奇しきラッパの音(トランペットのファンファーレ)にオケと合唱が加わって最後の審判の到来を告げ、バス・ソロが死者の蘇えりを語り、③メゾソプラノ・ソロが審判の有様を書き記した書物について語り、これに合唱が“ディエス・イレ”の再唱で呼応します。ここから曲は後半に転じ、④哀れな私(メゾソプラノ、テナー、ソプラノ)⑤威厳の王(合唱)⑥思いたまえ(メゾソプラノ、ソプラノ)⑦私は嘆く(テナー)⑧呪われた者(バス)と、ソロが中心になって恐怖からの救済を神に祈る歌が次々に歌われ、“ディエス・イレ”の合唱が再度爆発したあと、ヴァイオリンの優美な合奏に導かれて⑨ソロの四重唱と合唱が哀感を込めて<涙の日>を歌って至高の瞬(とき)に至り、“アーメン”で閉じられます。

- III. Offertorio (奉献唱)：ソロ四重唱が清澄なオケの音に支えられながら死者の魂の救済を静かに祈ります。
- IV. Sanctus (聖なるかな)：2群8声の合唱による壮大なフーガで主を称えます。
- V. Agnus Dei (神の子羊)：女声ソロと合唱が穏やかに主に安息を祈願します。
- VI. Lux aeterna (永遠の光)：ヴァイオリンのトレモロに乗ったメゾソプラノ・ソロにバス、テナーが加わって聖体拝受の三重唱が展開されます。
- VII. Libera me (私をお救いください)：全体を締めくくる総括的な終章で、祈りの言葉の朗読に続き、ソプラノ・ソロが裁きへの怖れを歌うと、ファゴットと弦の不安な響きとともに合唱が<怒りの日>を絶叫し、冒頭の<レクイエム>が再現されたあと再び祈りの言葉が力強いフーガで再現され、最後は消え行くように全曲が閉じられます。

今回はかねてから念願であったヴェルディの「レクイエム」を歌うことになりました。「合唱音楽の父」とも呼ばれたヴェルディの若き日のオペラ合唱曲2曲とともに、劇的な起伏と美しい旋律に満ち、深い死生観を湛えた畢生の大曲をソリスト、オーケストラと力を合わせ、心をこめて歌わせていただきます。

(参考文献)

「評伝ヴェルディ (I)、(II)」タロツツイ 小畑恒夫訳 草思社
「ヴェルディ」小畑恒夫 音楽之友社
「ヴェルディ」加藤浩子 平凡社
「物語イタリアの歴史」藤沢道郎 中央公論新社 ほか
(テノール 福田 伸)

歌劇【ナブッコ】より

「行け、我が思いよ、黄金の翼に乗って」 歌詞対訳

第4幕 エルサレムからはるか離れたユーフラテス河(バビロニア)のほとり、王ナブッコの捕囚となったヘブライ人たちが苦役の中で、祖国(ユダ王国)をおもいう望郷の歌

| | |
|--|---|
| Va' pensiero, sull'ali dorate; | 行け 我が思いよ 黄金の翼に乗って |
| Va, ti posa sui clivi, sui colli, | 行け 祖国の丘と山の上にとどまるのだ |
| Ove olezzano tepide e molli L'aure dolci del suolo natal! | そこには故郷の心地よいそよ風が 暖かく柔かく匂っている |
| Del Giordano le rive saluta, Di Sionne le torri atterrate... | ヨルダン川の岸辺や崩された シオン(エルサレム)の塔に挨拶するのだ |
| Oh mia patria sì bella e perduta! | おお こんなにも美しく失われた我が祖国よ! |
| Oh membranza sì cara e fatal! | おお こんなにも愛おしい滅亡の思い出よ! |
| Arpa d'or dei fatidici vati, | 預言者たちの黄金の堅琴よ |
| Perché muta dal salice pendì? | どうして柳に掛けられ黙っているのか? |
| Le memorie nel petto raccendi, | お前は胸の内の思いを再び燃やして |
| Ci favella del tempo che fu! | 過ぎ去った日々について我々に語っておくれ! |
| O simile di Solima ai fati | ソリマ(エルサレム)の運命に似た |
| Traggi un suono di crudo lamento, | 深い嘆きの音を奏でてくれ |
| O t'ispiri il Signore un concerto Che ne infonda al patire virtù! | さもなければ苦しみに耐える力を与える 心地よい響きを神がお前にお示しにならんことを! |

出典：「歌うイタリア語ハンドブック」株式会社ハンナ（宝塚混声合唱団・音楽会運営部編集）

歌劇【第1回十字軍のロンバルディア人】より

「エルサレム、エルサレム」 歌詞対訳

第3幕 苦難の旅の末にようやく聖地エルサレムにたどり着いた喜びを
兵士と巡礼たちが感涙を込めて力強くうたう

| | |
|---|---|
| Gerusalem... Gerusalem... la grande, La promessa città! | エルサレム! 偉大なる約束の町よ! |
| Oh sangue bene sparso... le ghirlande D'Iddio s'apprestan già! | 正しくも流された血よ 神の花冠はすでに 準備されている! |
| Deh per i luoghi che veder n'è dato, E di pianto bagnar, Possa nostr'alma coll'estremo fato In grembo a Dio volar! | 死の時には ついでに見ることのできたこの地に 私たちの涙で濡れたこの地に 魂が飛んで行ってほしい! |
| Gli empi avvinser là fra quei dirupi L'Agnello del perdon: | 神を恐れぬ者どもはあの絶壁の下で キリストを捕らえた |
| A terra qui cadean gl'ingordi lupi Quand'Èi rispose: Io son! | だが狼のような不信の者は地に倒れ伏した あのお方が、「我はここに」と答えられた時! |
| Sovra quel colle il Nazarén piangea Sulla città fatal; | あの丘の上で ナザレ人キリストは この町のために涙を流した |
| È quello il monte, onde salute avea Il misero mortal! | あの山こそは我々人間が 救済された場所だ! |
| Deh per i luoghi che veder n'è dato, E di pianto bagnar, Possa nostr'alma coll'estremo fato In grembo a Dio volar! | 死の時には ついでに見ることのできたこの地に 私たちの涙で濡れたこの地に 魂が飛んで行ってほしい! |
| O monti, o piani, o valli eternamente Sacri ad uman pensier! Ecco arriva, ecco arriva il Dio vivente Terribile guerrier! | 人々の思いの中で永遠に聖なる 山よ 野よ 谷よ! 今こそ ここに 生ける神が現れる 聖地を取り返す戦士がこの地にやって来る! |
| Gerusalem... Gerusalem | エルサレム! |

参照：BD「第1回十字軍のロンバルディア人」(UNITEL CLASSICA) (宝塚混声合唱団・音楽会運営部編集)

1. Requiem

Requiem æternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.
Te decet hymnus, Deus, in Sion,
et tibi reddetur votum in Jerusalem.
Exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet.

Requiem æternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

2. Dies iræ

2-1. Dies iræ

Dies iræ, dies illa
solvat sæclum in favilla:
teste David cum Sybilla.

Quantus tremor est futurus,
quando iudex est venturus,
cuncta stricte discussurus.

2-2. Tuba mirum

Tuba mirum spargens sonum
per sepulchra regionum,
coget omnes ante thronum.

Mors stupebit et natura,
cum resurget creatura,
judicanti responsura.

2-3. Liber scriptus

Liber scriptus proferetur,
in quo totum continetur,
unde mundus iudicetur.

Judex ergo cum sedebit,
quidquid latet, apparebit:
Nil inultum remanebit.

2-4. Quid sum miser

Quid sum miser tunc dicturus?
Quem patronum rogaturus?
Cum vix justus sit securus.

2-5. Rex tremendæ

Rex tremendæ majestatis,
qui salvandos salvas gratis,
salva me, fons pietatis.

永遠の安息を

主よ、永遠の安息を彼らに与え、
絶えざる光でお照らしてください。
神よ、シオンではあなたに賛歌が捧げられ、
エルサレムでは誓いが果たされます。
私の祈りをお聞き届けください
すべての肉体はあなたの元に返ることでしょう。

主よ、永遠の安息を彼らに与え、
絶えざる光でお照らしてください。

主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。
主よ、あわれみたまえ。

怒りの日

怒りの日、その日は
ダビデとシビラの預言のとおり
世界が灰燼に帰す日です。

審判者があらわれて
すべてが厳しく裁かれるとき
その恐ろしさはどれほどでしょうか。

奇しきラッパの響きが
各地の墓から
すべての者を玉座の前に集めるでしょう。

つくられた者が
裁く者に弁明するためによみがえる時
死も自然も驚くでしょう。

書物がさしだされるでしょう。
すべてが書きしるされた
この世を裁く書物が。

そして審判者がその座に着く時
隠されていたことがすべて明らかにされ、
罪を逃れるものはありません。

その時哀れな私は何を言えば良いのでしょうか？
誰に弁護を頼めば良いのでしょうか？
正しい人ですら不安に思うその時に。

救われるべき者を無償で救われる
恐るべき威厳の王よ、
慈悲の泉よ、私をお救いください。

2-6. Recordare

Recordare Jesu pie,
quod sum causa tuæ viæ,
ne me perdas illa die.
Quærens me, sedisti lassus
Redemisti crucem passus
Tantus labor non sit cassus.
Juste judex ultionis,
donum fac remissionis,
ante diem rationis.

思い出してください、慈悲深きイエスよ
あなたの来臨は私たちのためであるということ
その日に私を滅ぼさないでください。
私を探してあなたは疲れ、腰をおろされた
十字架を堪え忍び、救いをもたらされた
これほどの苦しみが無駄になりませんように。
裁きをもたらす正しき審判者よ
裁きの日の前に
ゆるしの恩寵をお与えください。

2-7. Ingemisco

Ingemisco, tanquam reus,
culpa rubet vultus meus;
supplicanti parce Deus.
Qui Mariam absolvisti,
et latronem exaudisti,
mihi quoque spem dedisti,
Preces meæ non sunt dignæ,
Sed tu bonus fac benigne,
Ne perenni cremer igne.
Inter oves locum præsta,
et ab hoedis me sequestra,
statuens in parte dextra.

私は罪人のように嘆き
罪を恥じて顔を赤らめます
神よ、許しを請う者に慈悲をお与えください。
(マグダラの) マリアを許し
盗賊の願いをもお聞き入れになった主は
私にも希望を与えられました。
私の祈りは価値のないものですが、
優しく寛大にしてください。
私が永遠の炎に焼かれないように。
私に羊の群れの中に席を与え
牡山羊から遠ざけ
あなたの右側においてください。

2-8. Confutatis

Confutatis maledictis,
flammis acribus addictis,
voca me cum benedictis.
Oro supplex et acclinis,
cor contritum quasi cinis,
gere curam mei finis.

呪われた者たちが退けられ、
激しい炎に飲みこまれる時、
祝福された者たちとともに私をお呼びください。
私は灰のように砕かれた心で、
ひざまずき、ひれ伏して懇願します。
終末の時をおはからいください。

2-9. Lacrymosa

Lacrymosa dies illa,
qua resurget ex favilla
judicandus homo reus:
Huic ergo parce Deus.
Pie Jesu, Domine,
Dona eis requiem. Amen.

涙の日、その日は
罪ある者が裁きを受けるために
灰の中からよみがえる日です。
神よ、この者をお許しください。
慈悲深き主、イエスよ
彼らに安息をお与えください。アーメン。

3. Offertorio

Domine Jesu Christe, Rex gloriæ,
libera animas omnium fidelium defunctorum
de pœnis inferni, et de profundo lacu.
libera eas de ore leonis,
ne absorbeat eas Tartarus,
ne cadant in obscurum.
Sed signifer Sanctus Michael
repræsentet eas in lucem sanctam,
quam olim Abrahamæ promisisti
et semini ejus.

Hostias et preces Tibi,
Domine, laudis offerimus.

奉獻唱

主イエス・キリストよ、栄光の王よ、
全ての死せる信者の魂を
地獄の罰と深淵からお救いください。
彼らの魂を獅子の口からお救いください
彼らが冥府に飲み込まれぬように
彼らが暗黒に落ちぬように。
旗手たる聖ミカエルが
彼らの魂を聖なる光へと導きますように。
かつてあなたがアブラハムとその子孫に
約束したように。

賛美の生け贄と祈りを
主よ、あなたに私たちは捧げます。

Tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus.
Fac eas, Domine, de morte transire ad vitam,
quam olim Abrahæ promisisti
et semini ejus.

4. Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus
Dominus, Deus Sabaoth
Pleni sunt cœli et terra gloria tua
Hosanna, in excelsis.
Benedictus qui venit in nomine Domini
Hosanna, in excelsis.

5. Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem sempiternam.

6. Lux æterna

Lux æterna luceat eis, Domine,
Cum Sanctis tuis in æternum,
quia pius es.
Requiem æternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.
Cum Sanctis tuis in æternum
quia pius es.

7. Libera me

Libera me, Domine, de morte æterna,
in die illa tremenda.
Quando cœli movendi sunt et terra,
Dum veneris judicare sæculum per ignem.
Tremens factus sum ego et timeo,
dum discussio venerit atque ventura ira.
Quando cœli movendi sunt et terra.
Dies iræ, dies illa
calamitatis et miseræ,
dies magna et amara valde.
Dum veneris judicare sæculum per ignem.

Requiem æternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.

Libera me, Domine, de morte æterna,
in die illa tremenda.
Quando cœli movendi sunt et terra,
Dum veneris judicare sæculum per ignem.
Domine, Libera me de morte æterna,
in die illa tremenda,
Libera me.

彼らの魂のためにお受け取りください。
今日、私たちが追悼するその魂のために。
主よ、彼らの魂を死から生へとお移してください。
かつてあなたがアブラハムとその子孫に
約束したように。

聖なるかな

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の神よ、主よ
天と地はあなたの栄光に満ちています。
いと高きところにホザンナ。
主の御名において来る者は祝福されますように
いと高きところにホザンナ。

神の子羊

この世の罪を取り除く神の小羊よ
彼らに安息をお与えください。
この世の罪を取り除く神の小羊よ
彼らに永久の安息をお与えください。

永遠の光

主よ、彼らを永遠の光でお照らしください。
聖者たちとともに永遠に
あなたは慈悲深くあられるのですから。
主よ、永遠の安息を彼らに与え、
絶えざる光でお照らしください。
聖者たちとともに永遠に
あなたは慈悲深くあられるのですから。

私をお救いください

主よ、永遠の死から私をお救いください
恐るべきその日に。
天と地が揺れ動き、
主が炎を持ってこの世を裁く日。
来るべき裁きと怒りの時に
私は恐れおののく。
天と地が揺れ動く。
その日は怒りの日、
災いと不幸の日
大いなる嘆きの日。
主が炎を持ってこの世を裁く日。

主よ、永遠の安息を彼らに与え、
絶えざる光でお照らしください。

主よ、永遠の死から私をお救いください
恐るべきその日に。
天と地が揺れ動き、
主が炎を持ってこの世を裁く日。
主よ、永遠の死から私をお救いください
恐るべきその日に。
私をお救いください。

Profile

指揮

畑 儀文

はた よしふみ



photo:Eiji Shinohara

兵庫県篠山市生まれ。大阪音楽大学大学院修了。

1979年大阪にて、小林道夫氏の伴奏による初リサイタルを行う。以後テノールソリストとして、ドレスデン国立歌劇場管弦楽団ホルン奏者ペーター・ダム氏との共演、イエルク・デームス氏の伴奏による数多くのリサイタル等で大きな成果をおさめた。

1991年オランダ・アムステルダムにおいて、バロック歌手として高名なマックス・ファン・エグモント氏のもとで研鑽を積む。以後オランダ各地において、受難週には、エヴァンゲリストとして招かれ、近年はドイツ・ライプツィヒにおいてバッハ作品のソロを務める。また1993年～1999年にかけて、シューベルト歌曲全曲演奏を成し遂げ、国内外で話題を集めた。

日本コロムビアからCD「日本のうた」「新しい日本のうた」「トスティ歌曲集」「昭和のうた」「美しき水車小屋の娘」をリリースし、その天性の歌声はジャンルを問わず心に響く感動を呼び、注目を集めている。

「大阪文化祭本賞」「咲くやこの花賞」「大阪府民劇場賞」「坂井時忠音楽賞」「兵庫県芸術奨励賞」「兵庫県文化賞」等多数の賞を受賞。

丹波の森国際音楽祭シューベルトアールデーたんば音楽監督。京都女子大学非常勤講師。

ソプラノ

辻井 亜季穂

つじい あきほ



ドイツアルテンブルク・ゲラ歌劇場 専属歌手。薔薇の騎士(ゾフィー役)でのデビューで大成功を収め、ポエム(ムゼッタ役)、マルタ(レディーハリエット役)、リゴレット(ジルダ役)、魔弾の射手(エンヒェン役)等に出演。来シーズンにはドンパスクアーレ(ノリーナ役)のプレミエーレを控えている。これまでに、ライプツィヒ歌劇場、ザクセン州立歌劇場(ゼンパーオーバードレスデン)、ドルトムント歌劇場、エアフルト歌劇場、ワイマール国立歌劇場、に客演。

大阪府立夕陽丘高等学校音楽科卒業。愛知県立芸術大学音楽学部音楽科を経て、同大学大学院音楽研究科博士前期課程を首席で修了。

中村桃子賞、平成20年度優秀学生賞受賞。在学中には、第5回長久手国際オペラ声楽コンクール特別賞を最年少での受賞を初め、第63回全日本学生音楽コンクール2位、第19回丹羽奨励生(大幸財団)等様々な賞を受賞の他、2010年夏には上海万国博覧会で演奏する等、多くの演奏会に出演。

2011年よりDAAD(ドイツ学術交流会)給費留学生としてライプツィヒ音楽演劇大学オペラ科に留学、マスターの学位を取得。在学中よりライプツィヒ歌劇場に客演。

シーズン2013/2014、ワイマール音楽大学付属テューリンゲン州オペラ研修所に所属。第12回Lortzingコンクール優勝、第11回ザルツブルクモーツァルト国際コンクールファイナリスト、第33回国際ハンスガボアベルヴェデーレ声楽コンクールファイナリスト(3つの特別賞を受賞)。

声楽を、大下久深子教授、Prof. Dr. Jeanette Favaro-Reuter氏、Prof. Hans-Joachim Beyer氏に師事。

メゾソプラノ

郷家 暁子

ごうけ あきこ



神奈川県出身。東京藝術大学、同大学院音楽研究科修士課程オペラ専攻修了。学部卒業時に同声会賞、アカンサス音楽賞受賞。平成16年同声会新人演奏会に出演。

第53回全日本学生音楽コンクール高校の部東京大会第2位入賞。丹波の森国際音楽祭シューベルトアールデーたんば二十回記念「シューベルトの歌コンクール」最優秀賞。

第51回藝大オペラ定期公演「皇帝ティートの慈悲」セスト役、台東区第九、日本橋三越第九アルトソロでデビュー。

幅広い音域を生かし、「天国と地獄」ヴィーナス役、「こうもり」オルロフスキー役、「魔笛」侍女2、「セヴィリアの理髪師」ロジーナ役、ベルタ役、「ドン・ジョヴァンニ」エルヴィーラ役、「コシ・ファン・トゥッテ」ドラベッラ役、「アポロンとヒヤキントス」アポロン役、「ナクソス島のアリアドネ」作曲家役、「カルメン」メルセデス役など様々なオペラをレパートリーとする。

オペラ以外では第九をはじめ、モーツァルト「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、バッハ「ロ短調ミサ」メンデルスゾーン「エリア」などのアルトソロを務める。

声楽を常磐容子、三矢直生、平野忠彦、アントン・トレムメル、マリ・アンネ・シャルトナー、オリヴェラ・ミリャコヴィッチ、寺谷千枝子、ソルフェージュを茂木真理子の各氏に師事。

テノール

松原 友

まつばら とも



photo:Yoshinobu Fukaya

東京藝術大学卒業。同大学院修了。

ロームミュージックファンデーション、野村財団奨学生としてミュンヘン音楽大学院、ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科卒業。

第51回全国学生音楽コンクール全国大会第1位。第14回松方音楽賞、第81回、第83回日本音楽コンクール第3位・岩谷賞受賞。これまでヨーロッパ、日本各地でのリサイタル、オラトリオの公演をはじめ、ミュンヘン放送管弦楽団、ノイエホフカペレミュンヘン、新日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団等のオーケストラと共演。NHKリサイタルノヴァ、ルールトリエンナーレ、小澤征爾音楽塾、サイトウキネンフェスティバル、PMF音楽祭に出演。小澤征爾、ウルフ・シルマー、準・メルクル、インゴ・メッツマッハー、大植英次、山田和樹他、国際的な指揮者と共演を重ねる。同志社女子大学、相愛大学、大阪音楽大学、大阪府立夕陽丘高校各非常勤講師。東京二期会会員。

バス

伊藤 貴之

いとう たかゆき



名古屋芸術大学卒業、同大学大学院修了。

NPO法人イエローエンジェルより奨学金を得て13年～14年イタリア留学。第48回日伊声楽コンクール第2位、第6回G.ゼッカ国際声楽コンクール第2位。第41回イタリア声楽コンクール金賞受賞。平成24年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞受賞。愛知県芸術劇場『椿姫』や『ランメルモールのルチア』をはじめ、『ドン・ジョヴァンニ』『リゴレット』『トゥーランドット』など多数のオペラに出演。

2013年藤原歌劇団にデビューし、『仮面舞踏会』トム、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ファルスタッフ』ピストーラ、『ランスへの旅』シドニー卿などに出演。第53回大阪国際フェスティバルオペラA・ゼツダ指揮「ランスへの旅」にドン・プロフォンド役で出演。2016年3月新国立劇場に『サロメ』兵士役でデビューする。京都の二条城にて、セイジオザワ松本フェスティバル特別演奏会、小澤征爾指揮ベートーベン第九にバスソロとして出演。

藤原歌劇団団員。

チェロ／アンサンブル・ムジカ・アニマ主宰

上塚 憲一

かみづか けんいち

京都市立芸術大学卒業。チェロを黒沼俊夫、A.ビルスマ、室内楽をG.ボッセ、S.スタンデイジの各氏に師事。

大阪文化祭奨励賞、灘ライオンズクラブ賞、坂井時忠音楽賞を受賞。

大阪音楽大学教授、同大学付属音楽院講師、西宮高等学校音楽科非常勤講師。チェロアンサンブル“エクラ”、Baroque Ensemble VOC、アンサンブル・ムジカ・アニマ主宰。西宮音楽協会会員。

バイオリン／コンサートマスター

釋 伸司

しゃく しんじ

京都市立芸術大学卒業。元テレマン室内管弦楽団コンサートマスター。現在は、いずみシンフォニエッタ大阪、マイハート弦楽四重奏団メンバー。京都フィルハーモニー室内合奏団客演コンサートマスター。

室内アンサンブル・アッサンブラージュを主宰し、ホール主催公演、学校公演レコーディングなど幅広く活躍している。神戸女学院非常勤講師。アンサンブル・ムジカ・アニマコンサートマスター。

オーケストラ

アンサンブル・ムジカ・アニマ

2006年上塚憲一を中心に発足したオーケストラで、主に関西で活躍する経験と実力豊かな演奏家を中心に構成される。

個々の演奏家のレベルの高さから、時代考証に基づいた正統派の演奏を目指す完成度の高いオーケストラで、バロックから近代の合唱作品での演奏は共演した各方面より高い評価を得ている。